

◇===== [第 24 号] =====◇

唯契の窓 唯物論的社会契約論研究所月報

2020 年 4 月 1 日

◇=====◇

先月号で COVID-19 を病原とする新型流行性肺炎がパンデミックに至るだろうとの識者の予測を報じましたが、驚くほどの速さでそれが現実のものとなってしまいました。世界経済への影響も深刻さをまし、世界恐慌へと進むのではないかという不安の声も聞こえてきております。

日々感染者数が増加する中で、感染経路の追えないケースが都市部で多発するようになってきました。これも当月報で予測したように、市中感染が静かに広がって行っている一つの証拠ではないでしょうか。全ての国民が PCR 検査を受けるわけにはいかないのです、実際に自分が既にウィスのキャリアになっていない保証はどこにもありません。症状の有無にかかわらず、すでに自分が無症候感染者だと想定して行動することが求められているということを改めてお伝えしておきたいと思えます。普段は症状のない方にはマスクの使用はおすすめていませんが、今回の COVID-19 の流行に関しては、積極的にマスクを使用していただきたいと思えます。政府にはマスクの確保をぜひお願いしたいところです。

●===== [時事批評] =====●

今月も先月に続いて COVID-19 による新型流行性肺炎のパンデミックの影響について考えていきたいと思えます。

安倍総理やアメリカのトランプ大統領などは今回の新型肺炎のパンデミックによる経済危機に、市中金利の引き下げという政策で対処しようとしています。実を的を外した政策だと言わざるを得ないでしょう。

経済活動が滞った際に、それを解消しようとするならば、それがどの段階で支障を来しているのかを明らかにして、その原因を取り除く方策を実施することが必要です。一般に市場経済においては、大づかみに(1)資金を調達し、(2)材料を購入して、(3)労働過程に投入し、(4)製造物を市場に提供し、(5)資金を回収するという 5 つの過程を一つのサイクルとして再生産活動が行われます。資本主義においては(2)の過程で材料だけでなく労働力も購入することになりますが、その対価の支払いは(5)の資金回収後ということになります。

では今回の新型流行性肺炎のパンデミックはこのサイクルのどの過程に支障を来しているのでしょうか。これは産業部門によって異なります。製造業においては(2)の原材料の調達(資本主義ですから労働力の購入も含まれます)過程に大きな影響が生じています。人と物の移動が制約されているため、これ

を解消しようとするならば、根本的にはパンデミックの終息を待つほかありません。消費活動を刺激するために広くお金をばら撒くことも検討されているようですが、消費される商品の生産自体が停まっているわけでこれも効果があるとは到底思えない方策です。

サービス業においては、感染拡大を防ぐ必要から営業自体の自粛が政府によって要請されているわけですから、資金をいくら供給したところで再生産活動のサイクルが再開できるものではありません。

つまりパンデミック下において、景気刺激策等の経済政策によって経済活動を再開させることには相当な無理があると言わざるを得ないのです。したがって政策はパンデミック下の国民の生活をどう保障するかという点に焦点を合わせたものでなくてはならないというのが合理的な結論というものです。

ここで問題になるのが、資本主義という制度の下で私企業が再生産サイクルの停止に伴って、労働者の解雇という行動をとるということです。疫学的な通説に従えば、パンデミックは集団免疫[註1]が獲得されるまで終息しません。このため今回のパンデミック終息には一年以上かかるとみておいた方が良くもしいれません。そこで政府がすべき経済政策は主に雇用維持のための政策ということになるでしょう。具体的には、(1)企業に対し今回のパンデミックを理由とした解雇を禁止すること、(2)基本的には企業の内部留保などで賃金を支払ってもらいようにしますが、それが困難な企業（主に中小企業など）については政府が国庫から賃金を補てんすること、(3)労働力温存のために医療費は無料にすることです、(4)これまでの社会保障費の削減目的で脆弱化させてきた医療機関に対する政策を180度改めて、体制的な強化を図る事などです。

次にそのための予算はどのように確保すべきかという問題が生じます。まず考えられることは予算の抜本的な組み換えでしょう。特にこの間の経験からも明らかになったように、防衛費という軍事費は全くの無駄遣いですから、これを緊急対策費に充てるようにしましょう。特に自衛隊の正面装備は不要のものでありますからイージスアショアなどの設置を放棄して、防衛備品に関する予算はゼロ査定すべきです。

それでも足りないことは目に見えています。そこで必要な歳費をどこから賄うかが課題となります。安倍内閣は赤字国債の発行などを考えているようですが、これほど後先を考えない調達方法もないでしょう。経済活動そのものが低迷する中、国債に対する需要があるとも思えません。相当な長期金利の上昇を覚悟しなければならず、その返済の為にまたぞろ消費税増税なんてことになる

と別の理由で日本経済は崩壊すると予測されます。この際とる手立てはただ一つ、大企業を中心とした巨額の内部留保に大胆に手を付ける以外にありません。それを拒むような企業や企業家は日本国民の敵です。安倍内閣にそれをするだけの度量あるいは勇気があるか、はなはだ疑問ですが、いまそれをしなければ日本の資本主義は崩壊することになるでしょう。それはそれで願ったりかなったりという気もしないではないですが、いま大事なのは日本国民の命と暮らしを守る事なので、安倍氏にはなんとしても腹をくくっていただきたいと思いません。

国民の雇用を維持し、パンデミック終息まで労働力を温存することが日本経済再建にとって必要不可欠の条件である。これが今回の結論ということになります。既にイギリスなどでは企業活動の停止に伴って労働者への給与の支払いが停まっていますが、政府の責任で賃金の保障を政府が行うなどの政策が打ち出されています[註2]。日本にもできない話ではないはずで

[註1] 例えば、インフルエンザの場合、社会全体の33~44%の人びとが免疫を獲得すれば流行は収まり、SARSの場合では50~80%が免疫を獲得すれば流行は収まるとされます。

(<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9B%86%E5%9B%A3%E5%85%8D%E7%96%AB>)

SARSと同じコロナウィルスであるCOVID-19について、日本の最終的な感染者は700万人程度までは見ておく必要があるかもしれません。もっともこの感染は自然感染かワクチンによる人為的感染かは問いません。早期にワクチンが開発されることを願います。

[註2] ロンドン時事は、英政府が国内の飲食店やパブ、劇場などの一時閉鎖を命じ、企業による解雇を防ぐため、余剰となった労働者の賃金の最大80%を政府が負担すると表明したと伝えています。(<https://www.jiji.com/jc/article?k=2020032100166&g=int>)

●=====●

□===== [理論解説] =====□

今月は新興感染症の世界的流行（パンデミック）について。

最近の人類の経験したパンデミックとしては100年前のスペイン風邪が挙げられます。それはアメリカで発生した新型インフルエンザでしたが、第一次世界大戦に参戦したアメリカ兵によってヨーロッパに持ち込まれ[註3]、戦時下のヨーロッパを中心に猛威を振るいました。一説によれば、その死者数は当時の戦死者数を上回ったとも言われています。

今回のCOVID-19による流行性肺炎は若年者の発症率・重症化率とも低いようですが、「インフルエンザ情報サービス」（中外製薬のサイト）によれば、ス

インフルエンザの場合、20代30代の青壮年層の死亡症例が多かったとされています。

今回のパンデミックから学ぶべきことは多くあります。それは第一義的には今日のパンデミックを終息させるための知識としてなされるべきことではありますが、同時に来るべき新型インフルエンザ(H5N1, H7N9等)のパンデミックに備えるという事でもあります。

既にH5N1やH7N9の鳥からヒトへの感染事例も多数確認されています。専門家の間ではH5N1がヒトヒト感染能力を身につけるのは時間の問題だろうとみられていて、この間ずっと監視されてきたウイルスでもあります。これらの鳥インフルエンザの病原性はCOVID-19とは比べ物にならない位高いだろうと予測されており、統計資料によれば現在H7N9に感染した人の死亡率は38%となっています[註4]。ヒトヒト感染能力を身につける段階でもう少し下がるかもしれませんが、いずれにしても今回のCOVID-19のように「やわい」ウイルスではありません。

私たちは今回のCOVID-19の脅威を社会の総力をもって克服する必要がありますが、同時にこれまで警戒されてきた鳥インフルエンザ由来の新興感染症にも注意の目を向け、社会とくに政治の在り方を根本的に変える必要があります。

[註3] スペイン風邪の起源については諸説あるようですが、記録されるところによると第一波の発生地はアメリカ北西部とされています。鳥インフルエンザ(H1N1)の突然変異による鳥から人へ感染し、ヒトヒト感染するようになったと考えられています。

<https://influ-info.jp/basic/history.html>

[註4] <http://pandemicinfores.com/diary.html>

□=====□

★===== [コラム] =====★

前回からHTML型式でも配信を行いますとして、実際に試みてみましたが、いろいろと不具合が生じており、当面従来のテキスト形式での配信を続けることとしました。

IT技術の変化も早いということで、なかなか技術力を身につけるのは難しいと感じております。そんなわけで、ご期待頂いた皆さんにもご迷惑をおかけしますが、今しばらくご猶予を頂きたく存じます。

★=====★

次回の発行は5月1日を予定しております。